

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立多摩工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局 副校長および副校長マネジメント支援員 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)、主任教諭(生活指導主任兼務)、主幹教諭(進路指導主任兼務)、主任教諭(学校運営部主任兼務)、主幹教諭(4科工業科主任及びデジタル科主任兼務)、書記（新規採用） 計9名
- (4) 協議委員の構成
元大学教授、近隣自治会会長、市教委係長、近隣中学校長、地元企業部長級、同窓会会長、警察署課長級、消防署出張所長、PTA会長 計9名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - 第1回 令和5年6月29日（木）内部委員9名、協議委員7名
分掌の組織目標及び1学期の行事報告。
 - 第2回 令和5年11月28日（火）内部委員9名、協議委員7名
令和4年度入学選抜や募集対策、2学期の行事報告、3学年進路の進捗状況報告
 - 第3回 令和6年2月9日（金）内部委員9名、協議委員8名
入学者選抜の募集対策結果および令和4年度推薦入試倍率と学力出願状況、進路状況、学校評価アンケートの集計結果など
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年11月28日（火）内部委員2名、協議委員2名
アンケート調査用紙、質問事項の修正および集計方法について
 - 第2回 令和6年2月9日（金） 内部委員2名、協議委員2名
アンケート結果報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校の認知、理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

(数字：人数、回収率：%)

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		
					配布数	回収数	回収率
生徒	99%	100%	100%	80.9%	468	421	90%
保護者	64%	33%	74.9%	38.2%	468	270	58%
教職員	61%	100%	100%	100%	58	58	100%
地元自治会	100%	75%	100%	100%	14	14	100%
中学生	100%	100%	100%	100%	約 500	155	31%

- (3) 主な評価項目
 - ・学校全般の印象に係ること。

- ・学習指導、生活指導、進路指導、特別活動に関すること。
- ・防災教育・健康・安全指導に関すること。
- ・開かれた学校への取り組みに関すること。
- ・働き方改革に係ること。
- ・教職員研修の実施状況の把握状況

（４）評価結果の概要 （学校及び校長への意見・提言内容）

- ・「入学してよかった」という設問の結果では、生徒は74.6%（昨年78.9%）が本校への入学を肯定的に受け止めている。また保護者は97%（昨年98.9%）となり学校への期待感が見られる。ただし、昨年よりマイナス2～4%と評価が下がった。理由としては、コロナ感染症が落ち着き通常的生活様式に戻り、実習、レポート作成、インターンシップなどスケジュール的に忙しく感じられたためかと思われる。
- ・「部活動は活発」だと思う生徒は、69.1%（昨年77.4%）で部活動の盛んな学校だとの認識がある。
- ・「家庭ではどのくらい勉強していますか」の問いには、「ほとんどしていない」と答えた生徒が27.8（昨年23.8%）で全体の約3割に上昇してしまった。家庭学習の定着を学校・保護者等で考え、生徒に意識づけする必要がある。
- ・「分かりやすい授業が多い」と思う生徒は、75.3%（昨年75.4%）だった。昨年度に続き7割を超えた。ICT機器を活用した授業や、一人一台パソコンの活用により、生徒の理解度が上がったと考えられる。また、ICT機器を活用した授業の割合が昨年度より格段に増えたことや朝学習で一人一台パソコンを使用し、全員が活用の定着が図られたことが原因であると考えられる。オンライン授業や Teams を活用したプリント学習を補う教員が多く、生徒の理解度に大きく影響したと考えられる。
- ・本校で学力が伸びたと思う生徒は62.7%（65.1%）、学力が伸びたと思う保護者は74.4%（77%）だった。補習授業、個別の対応、提出物の徹底など丁寧な指導が、生徒本人や保護者の学力向上の実感に結びついている。
- ・「相談できる先生はいますか」と思う生徒は、64.1%（63%）だった。さらに教員に対する信頼関係を高めるために、いじめ対策委員会等で話し合った結果を該当教員へ共有するシステム作りが必要で、必要な情報を必要な先生に情報発信する多摩工版ツイッターを来年度に向け稼働予定である。また生徒へのガイダンス機能を高める工夫が必要である。
- ・「この1年で防災意識は向上しましたか」の質問に52.5%の生徒がそう思うと回答し、初めて50%を超えた。新型コロナによる防災活動が今年度より活性化され、世界各地で発生した自然災害を意識しながら、防災訓練や避難訓練の実施、防災訓練では数多くの体験活動が実施できたからだと思われる。
- ・「就職に関する指導が多く行なわれている」と思う生徒は昨年に続き90%と高い数値を保っている。就職希望者の第1回目で就職が決まった生徒の割合が昨年に引き続き90%を超えた。また、「資格取得に関する指導を多く行っている」と答えた生徒も90.5%（89.2%）と増加している。資格取得が多ければ進路は開けると感じている生徒が多いと思われる。他の工業高校と比較しても例を見ないほど高い数値となっている。教職員一同、学校をあげて一貫した生徒指導を行っていることが進路実現に繋がっていると考ええる。
- ・生活指導上のことで「厳しい指導」だと思う生徒は67.5%（63.6%）、保護者は50.2%（50%）と生徒は2%増え、保護者は昨年並みだった。保護者と生徒の数値が近づいてきている。いつでも面接試験に臨める服装であることや、安全に実習が行える観点から生活指導を実施している結果であると推察する。
- ・自治会や地域のアンケート回収率は高いが、昨年の倍になったとはいえ回答数が低い。今後も、地

域のアンケート配布回収方法について検討する必要がある。

・アンケート回答結果の比較から

- ・ホームルームが活発だと思っているのは教員が多く、生徒は冷ややか
- ・体罰への取り組みがしっかりできていると思うのは教員、生徒は冷ややか
- ・入学してよかったは、3者ともに高評価
- ・部活動が活発だと思っているのは、教員が一番
- ・学力が伸びたと思っているのは大人2者
- ・3者ともに、家庭学習の時間が少ないと思っている
- ・おおむね3者ともに就職指導に満足している
- ・進学指導に熱が入っていないと思っているのは保護者
- ・生活指導が厳しいと思っているのは教員が一番、保護者は平均と思っている
- ・教員ほど生徒は相談できる先生がいると思っていない
- ・防災訓練、交通安全指導が十分だと思っているのは、教員だけ
- ・学校での活動は親に伝わっていない
- ・インターンシップ体験は3者ともに高評価
- ・資格取得指導は3者ともに高評価
- ・大人は学校からの通知が届いていると思っていない
- ・学校に年3回以上来校している保護者は3割弱
- ・わが子が専門の勉強をしていることに満足している保護者は8.5割

(5) 評議委員からの意見

参考資料 参照

(6) まとめ

令和5年度は5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され多くの制限が解除され、学校生活にも活気が戻ってきた。6月に行われた体育祭は、保護者や一般への公開を実施した。任意ではあるが感染対策をしながらの熱中症対策を講じながらの体育祭となった。秋に開催された文化祭では、3年ぶりに一般の方へ公開が可能となり多くの来校者を迎えて開催できた。2日間で来校者は1336人となった。

修学旅行は、4月に3年生が沖縄へ行くことができ現地でも天候に恵まれ就職活動開始前に貴重な学生生活の思い出を作ることができた。校外学習では、春に1学年が、昭和記念公園へ行き〇〇の経験を積むことができた。2、3学年は各科に分かれて工場見学を実施し、就業体験を行った。1年生、2年生のワーキングプログラムでは、約70社の企業の協力をいただき、授業で習得した技術を生かす場面が多く充実した研修となった。芸術鑑賞教室も再開でき、福生市民会館で学生間のSNS利用を題材にした舞台を鑑賞した。生徒にとって身近な問題として考えるいい機会となった。

学運協について

学校運営連絡協議会は、しばらくぶりに年3回の開催が実現し、評議員の皆さまより貴重なご意見を賜うことができた。通学時の自転車用ヘルメット着用や電動型キックボードの使用などについて、相談させていただいたり、防災訓練でご協力いただいたり、学校評価に関する評価の視点についての意見など、さまざまお力添えをいただいた。

学校評価アンケートについて

評価委員会で質問内容の見直しを行い、3者間の意識差を比較する調査を加えた。

また、学校見学会・説明会で多摩工科に興味のある中学生にアンケートを実施したことにより、充実した施設や活気ある学校行事といったアピールするべき情報や、専門性や資格取得への細かい指導など外から見た多摩工科の魅力などが明確になった。

保護者へのアンケート回答はハイブリッド方式で、ご自身の都合がいい方法で答えてもらったが、Formsを使ったアンケートのほうが、自由意見がよく集まった。学校からの配布物を減らしデータ配信してほしいという意見が多く、実現できればエコ対策と通知の徹底に効果が期待できる。

自由意見の多くは、好意的なものが多かったが、中には一方的な解釈と思われる内容もあり、実際に見て判断していただきたいと思うものもある。保護者の来校機会を増やす試みと来校意識を向上させる試みが必要だと考える（1学期、2学期の各1週間の学校公開参加者、約10人）。

生徒の事故について

今年度は残念ながら、生徒がケガをする事故が発生した。指導体制と、機械の点検・保管体制を見直し、再発防止を徹底した。幸い、ケガをした生徒は日常生活に支障のない状態に回復した。

例年ひどくなる猛暑のため熱中症の疑いによる救急搬送が1件発生した。先生方の迅速な対応により、大事には至らなかった。今後も外での運動中はもちろん、旧式校舎での熱籠りにも注意していきたい。

また、2学期中に突然1人の教員が病気で亡くなった。生徒の心のケアと授業の補強体制などの対応が必要になった。教職員のストレスチェック、健康管理などにも日頃から注意していきたい。個人情報などに配慮しつつ有事の際の連絡体制を明確にした。